

# 大麦特報 (第3号)

平成29年2月22日  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

本年の大麦は、平年より茎数が少なく、また葉色が淡くなっているほ場が見られます。今後の生育を確保するために次の対策を実施しましょう。

◎ほ場をこまめに見回り、停滞水を速やかに排水しましょう。

◎分施の場合、追肥を遅れずに行いましょう。

## 1 排水溝の点検・手直し

大麦は、ほ場内に水が停滞すると、湿害（根腐れ症状）を受け、生育量の不足、収量の減少につながります。

**排水溝の手直しや増設、排水口の掘り下げを徹底しましょう。**



## 2 追肥の実施

### ◎分施体系

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するために重要な作業です。

**時期** 2月下旬～3月上旬を目安に

※目安：平均気温4～5℃となる頃

**施用量** 硫安 20kg/10a

※茎数が多い場合(土が見えないくらい繁茂しているようなほ場)は施肥量を減らしましょう。

※肥効調節型配合肥料(LP大麦48号)を施用した場合は、原則追肥しない。

ただし、極端に葉色が淡い場合はJAや農林振興センターにご相談ください。